

# 第7回 市民動物園会議

会 議 録

## 第7回 市民動物園会議

- 1 日 時 平成21年8月7日（金）14：00から16：00
- 2 場 所 円山動物園内 動物園プラザ
- 3 出席者 委 員：原田 昭、服部 信吾、井上 剛、太田 富士栄  
鈴木 美佐子、須藤 深雪、林 健嗣、原 はるみ  
（欠席）いがらし ゆみこ  
事務局：環境局理事、円山動物園長、飼育展示課長 ほか

### 4 議 事

#### (1) 経営状況報告

- ・ 入園者数の状況（4～7月）
- ・ 新着動物、出産の状況
- ・ 20年度の行事報告及び評価

#### (2) 前回会議の議論から

- ・ アニマルファミリーの自動継続について
- ・ アニマルファミリーライブカメラについて
- ・ カッコウの展示、野生復帰について
- ・ ビオトープの参加植樹イベントについて
- ・ 入園時の演出について

#### (3) その他

次回議題と日程調整等

## 1. 開 会

**○原田委員長** それでは、時間になりましたので、第7回市民動物園会議を開きたいと思  
います。

今日は動物園の入口のところを見ましたら、なかなかほどよい入りぐあいで、いい感じ  
だなという感じでした。夏休みということもあって子どもたちがたくさんいて、なかなか  
動物園らしい雰囲気よかったですというふうに思いました。

まずは、事務局の方から今日の出欠についてお願いします。

**○酒井園長** 本日は、事前には全員参加のご連絡をいただいておりますが、いがらしゆ  
みこ委員が事情によりましてご欠席のご連絡をいただいております。また、林委員につき  
ましては遅参のご連絡をいただいたところでございます。

以上です。

**○原田委員長** ありがとうございます。

## 2. あいさつ

**○原田委員長** それでは、理事からお願いします。

**○新目環境局理事** 開会に当たりまして、一言、ごあいさつをさせていただきます。

委員の皆様には、8月に入りまして、休暇など何かとご予定がある中、本日の会議にご  
出席をいただき、まことにありがとうございます。

今年は、例年になく札幌もなかなか夏らしい気候になりませんで、8月に入って、数日、  
やっと夏らしくなってきました。聞くところでは、7月は例年の半分しか太陽が顔を  
出さなかったということで、その分、雨の日が多く、道内の農作物の生育が悪く、深刻な  
状況と聞いております。このような天気は、動物園へのお客様にも大きく影響するところ  
ですが、後ほど園長より詳しくご報告いたしますけれども、天候に余り関係ないほどホッ  
キョクグマの子グマ2頭に続くユキヒョウの赤ちゃん2頭の誕生人気で、昨年の来場者の  
3割増しの状況となっております。

確かに、動物誕生人気も入場者増の大きな要因でありますけれども、この市民会議での  
各委員の提案や基本構想の着手など、円山動物園の取り組みが徐々に理解されてきている  
結果と評価してもらえるのではないかなと思っております。基本計画の着実な前進が重要  
ととらえながら、今後も各委員の皆様のご意見を反映した市民のための動物園に本当の意  
味で変身できるよう、職員一同努力してまいりたいと考えております。

本日の会議をよろしくお祈りを申し上げます。

最後になりますが、今、我々の決意を述べましたのは、今回の会議をもちまして、公募  
委員の井上委員、鈴木委員、須藤委員、青年会議所の太田委員、ボランティア代表の原委  
員には委員の任期が満了となります。会議の開催こそ少ないものの、長期にわたり円山動  
物園の再生のため日々円山を脳裏に置いていただき、貴重なご意見やご協力をいただきま  
したことに、職員一同、心より感謝申し上げます。まことにありがとうございました。

委員を退任されても、今まで同様、円山の応援をよろしくお願いいたします。

時間は限られておりますけれども、後ほど皆様には円山に対する思いのほどを述べていただく時間を設けましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上、簡単でございますけれども、開会に当たりましてのあいさついたします。

**○原田委員長** ありがとうございます。

それでは、酒井園長、お願いします。

**○酒井園長** 皆さん、こんにちは。

4月1日に着任いたしまして、あっという間の4か月でございます、本当に勉強することばかりで、毎日が驚きと感動の連続でございます。

円山動物園は、今、理事の方から説明がありましたように、天候不順にもかかわらず、なかなか好調でございます。その辺の経営状況、入園者状況を含めまして後ほど詳しくご説明させていただきたいと思っております。

先ほど、理事のあいさつの中にもありましたが、人気のユキヒヨウの赤ちゃんに關しまして委員の皆様にご報告させていただきたいと思っております。

5月2日に、母親のリーベ、父親のアクバルの間に、白いツインズということで私どもは売り出しましたけれども、双子が生まれてございます。そして、7月3日に公開をさせていただきます。生まれて1カ月後に最初の体重測定をしたときはおよそ2キロぐらいでしたけれども、先日はかったときには両方とも6キロを超えるということで、遠目に見ると子猫のようで非常にかわいらしいのですが、かなりジャンプをしたり、雌の方は上の木の方によじ登るといようなやんちゃぶりも発揮して、順調に生育しているということでございます。お客様の人気も大変なもので、我々も、皆さんに見ていただくために、ゴールデンウイークのホッキョクグマのときもそのようにしたのですが、警備をつけて、たくさんの方に楽しんでいただけるような体制を今考えているところでございます。

後ほど、このユキヒヨウも含めまして、新しく円山動物園に仲間入りした動物の紹介もさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

今日の審議のほど、よろしくお願いいたします。

**○原田委員長** ありがとうございます。

### 3. 議 事

**○原田委員長** 今日は、先ほどご説明がありましたけれども、今期の最後の会議ということになりますが、また新しい委員をお迎えして、新しい会議をスタートさせる前の一つの区切りの会議ということになります。

議題の一つとして、経営状況の報告についてご説明をいただきたいと思っております。

それでは、よろしくお願いいたします。

**○酒井園長** それでは、お手元の会議資料の資料2-1をごらんいただきたいと思っております。

17年から21年度ということで、一番左側に4月から7月までの入園者を記載させて

いただいております。4月が、今年度は8万3,589名ということで、前年度に比べてまして約3割のアップ、これに関しましてはその前月の3月20日に一般公開しました双子のホッキョクグマの効果とが非常に大きく、非常にたくさんのお客様に来ていただきました。この4月に入りましてからも、4月19日にはプールデビューということで、お客様も、なかなかプールに入らないツインズを見ながらはらはらドキドキする中、子育てのベテランになりつつあるララが両方を上手にプールに導くというような非常にほほ笑ましい光景がテレビ等で報道されまして、たくさんのお客様に来ていただくことができたと考えています。

それから、4月末から5月にかけてのゴールデンウィークシーズン、5月は17万5,869人ということで、ここも前年に比べて約50%の増ということです。特にゴールデンウィーク期間中はたくさんのお客様で、5月3日には2万5,000人に来ていただきまして、この時は旭山動物園より円山動物園の方が入場者が多かったという時もございます、非常に好調でございました。

先ほど、理事の方からもお話がありましたが、6月に入りまして、特に土・日になると天気が崩れるという不順な天候が続きました。こうした非常に人気動物がいるにもかかわらず、なかなかお客様が伸びなかったというのが6月でございました。私どもは非常に心配したのですが、それでも8万4,716人ということで、非常に天候不順で大雨等がございましたが、結果としては、それでも前年の20年度に比べて5,000人多くのお客様に来ていただいたというのが6月でございました。

7月も引き続き、日照不足、天候不順でございましたが、結果として後半に特にお客様にたくさん入っていただきまして、ここ数年では初の7月の10万人超えということで、10万1,935人ということで、前年度に比べて1.4倍のお客様に来ていただきました。これは、ユキヒョウであるとかホッキョクグマも引き続き人気もあったということもございまして、たくさんのお客様に来ていただいたのかなと思います。それから、例年であれば暑くなって30度という日がたくさん出てくれば、プールなり海なりに行くお客様も非常に多かったのだらうと思いますが、そこに行くまでの気温ではなかったということが動物園に来るにはちょうどよかった気温なのかなと思います。ですから、低温というものが円山動物園にマイナスに働いたのか、プラスの働いたのか、この辺の天候に関する分析はもうちょっと詳細にやってみなければ分からないかなというところでございます。

7月までのデータは以上でございますが、8月も本日7日になりますが、昨日まで6日間で、現在、3万3,502人ということで、こちらの方も例年の2倍ぐらいの、8月の出だしだけで非常に好調な状況を引き続き維持してございます。8月も、このままいけば、昨年を相当上回るような入園者に来ていただけるのかなというふうに思います。

この資料の中には書いてございませんが、入園者数全体がふえているということだけではなくて、有料入園者数が割合として非常に高くなっています。ですから、若いカップルの方というような年齢層も、お年寄りとかお子様だけではなくて、有料入園者と言われる

ような方々の年齢層の比率も伸びてきているのが今年の傾向かなというところでございます。

とりあえず、入園者、経営状況等につきましては以上でございます。

続きまして、次のページに行きまして、新着動物、出産の状況のご報告をさせていただきます。

資料2-2をごらんください。

昨年度末からの報告になりますが、3月3日、エランドの雌が誕生してございます。名前を公募したところ、3月3日ということもありまして、ひな祭りにちなんでひなというものが圧倒的多数でございまして、命名の方はひなということで、私どもはひなちゃんというふうに呼んでおります。

3月2日、17日の2日にわたりまして、オグロプレーリードッグの雄7匹、雌7匹が生まれてございます。大家族になってございます。

それと、3月24日、のいち動物公園からマレーグマの雌、ハッピーが来園してございます。

同じく、3月31日、羽村市動物公園からワオキツネザルの雌のアサギが来園してございます。

新年度に入りまして、4月8日、オオワシが誕生してございます。いまだ性別は不明でございますが、ケージの中で親とほぼ同じ大きさのところで、くちばしの色が黄色くなくて、まだ白いというところで、幼鳥というふうに見分けられますけれども、大きさ的には本当に立派なオオワシになってございます。

それと、4月21日未明に、ゼニガタアザラシの雄が生まれてございます。これも、名前を公募いたしまして、円山の円と丸っこいという両方あって、まるちゃんというふうに命名されてございます。

それから、4月25日にダイアナモンキーが生まれてございます。

それから、待望の弟路郎のお嫁さんが5月1日にインドネシアからやってまいりました。5月15日から一般公開で、非常に愛らしい雌で、大変な人気でございます。

それと、先ほど申しました5月2日に、ユキヒョウの双子、雄と雌が誕生でございます。既に名前の選定が終わってございまして、これに関しましては、あす、命名式をとり行う予定でございます。

それと、6月29日から7月1日にかけてまして、ヨウスコウワニ、今回は2001年、2008年に続きまして3回目の孵化になりますが、今年は何と16つ子ということで、大変なベビーラッシュでございます。これらを爬虫類館の一番入り口のところに展示して、このコオロギのえさやりもなかなか見ものでございまして、お客様の人気を博しているところでございます。

6月26日、野毛山動物園からホウシャガメ3匹が来園してございます。

それから、5月17日、7月3日、これは2回にわたりまして、カンボジアモエギハコ

ガメ2匹が孵化してございます。

それと、7月23日、つい先日ですが、浜松市の動物園から、これも待望のマンドリルの雌が来園してございます。名前をしずかというふうにつけてございます。

それと、7月21日、シシオザルのディーチャンが誕生してございます。

新着動物と出産状況については以上でございます。

それでは、続きまして、これは先日、前回の市民会議のときに、服部副委員長の方から年間行事の評価についてきちんと行って、イベントの検証をした方がよいのではないかと  
いうご指摘、ご提案がございまして、今回はそれを指標にまとめてございます。

通常、私どもの動物園では、毎日の入園者数の日報と、そのときに開催しているイベントの状況を比較いたしまして、かつ費用対効果の面から検証を行っており、毎週、私どもの園内で開催しております経営会議、役職者会議と呼んでおりますが、ここにおいて改善指示を出すというサイクルになっております。

本日は、外部の皆さんにもおわかりいただきやすいように、どんな評価を行っているのかというのを指標化しましたので、説明させていただきたいと存じます。

A3判の資料2-3をごらんいただきたいと思います。

これに関しまして、上の欄ですが、左側から行事名、実施日、それと主な内容、開催場所というふうに記載してございます。開催期間の入園者数が記載されておまして、これを前年の入園者数と比較することによって集客性を検証するということが基本でございます。当然、これは天候に左右されるということが非常に大きいので、参考までに天候も記載しているところでございます。

また、単位イベントごとに動物園としてかかったコストというものを支出と書いた支出欄に記載してございまして、収入欄は入園料を収入として記載してございます。ご存じのように、必ずしもこのイベント単体で稼ぎ出した収入ということではございませんので、この数字はあくまで参考数字というふうに考えていただきたいと思います。

最後に、凡例という形で載せさせていただいてございますが、ピンク色に塗ってありますのが円山動物園として集客性に課題があるのではないかとというふうに認識しております。緑色に塗ってありますものにつきましては、教育的価値とか地元への還元などの要素から実施しているものでございまして、集客性が低くても、今後とも実施していくべきものというふうに考えているものでございます。この資料では、集客性と経済性の立場でまとめてございますが、実際の経営判断では、これに加えて、話題性、つまり動物園として動物園のPRになるか、ブランドが向上すると思われるようなものは継続性、つまり長年これまでも親しまれてきているというような定例行事になっているものについては、改めて見直す必要はないというように整理してございます。

具体的に、実際に私どもの現状の考え方と評価でございまして、個別に言いますと、これで見えていきますと、まず緑色のものでございますが、アースデイとカバと一緒に虫歯予防デー、それと次のページに行きまして地元感謝デーというものを上げさせていただきま

した。アースデイに関しましては、昨年度は雨で集客が落ちましたが、非常にたくさんのNPO等の団体、34から35の団体に参加し、このイベントを通じまして環境教育のネットワークができたという経緯のあるものでございます。

続きまして、6月1日の虫歯予防デーでございますが、これに関しましては札幌歯科医師会とコラボレーションをして歯磨き啓発を行っているものでございます。

次のページに行きまして、地元感謝デーにつきましては、円山動物園周辺の3連合町内会を対象に無料でご招待をして、昨年まで園長が講演を行っているものでございます。

こういった事業、イベントに関しましては、集客性とか経済性に関係なく、社会的価値から実施を継続していきたいというふうに考えております。

次にピンクでございますが、これは課題ありというふうに私どもで評価しているものでございますが、今、一番上の人形芝居「オオカミ!!!」でございます。こちらも、晴れ1、雨1というふうになってございますが、実際、ここで100万円のコストをかけているわけございまして、少ない日数の中でこのコストを回収しなければならないために、今後につきましては、開催日の検証とか、前売り券の販売方法とか、PR方法というようなものに検証が必要かなと考えているところでもございます。やはり、この辺の支出に関しましても、スポンサーの協賛というものをもう少しきっちり考えていく必要があります、その辺に課題があるのではないかとというふうに評価しているところでございます。

続きまして、次のページのピンクでございますが、円山動物園芸術祭に関しまして、実際の会場における集客性とか話題性といったようなものがいま一つございまして、特に高齢者をターゲットにお孫さんと一緒に動物園といらしてくださいという趣旨のイベントでございましたが、過去3回実施して今回で一たん終了し、今年度は少し趣向を変えまして、新しいコンセプトにいたしまして、収穫祭的なものを秋には打ち出していったらどうかというふうに、今現在考えているところでございます。

それから、次に冬のイベントになります。円山動物園サンデーセミナーというところがございます。これも過去3回実施してきておりまして、既に新鮮味に欠けているため、話題性の観点からかなり工夫が必要だなというふうに考えているところでございます。

それと、同じく冬期間のイベントの円山動物園スノーフェスティバルでございますが、これは、雪まつり時期にあわせて大々的にPRしながら実施してございますが、実際の入園者数として思うように伸びていないというところがございます。冬の目玉と言えるイベントがないために話題性に欠く部分がどうも否めないということです。展示自体も、冬に輝く動物ということで、冬用の看板をかけたり、ウェブ上でもプロモーションを行っておりますが、決め手がないというのが現状でございまして、この辺も含めて委員の皆様にご相談をして意見を賜りたいところでございます。

このほか、円山動物園といたしましては、ここに出ていないものとして、LOHASナイトとかJTBのナイトキャンプ等がございますが、これらは既に観光商品として販売しているものでございますので、ここには掲載しておりませんが、収益性で



あるとか話題性の観点からも常に成功している、継続できるイベントというふうに考えているところでございます。

一たん、経営状況の報告の説明は以上でございます。

**○原田委員長** ありがとうございます。

それでは、ただいまご報告がありました件につきまして、大きく三つでございましたが、一つずつ委員の先生方のご意見、ご質問等をいただきたいと思っております。

まず一つは、入園者数の状況についてでございますが、これについていかがでしょうか。

21年度は20年度に比べて30%増という現状であるということでございますが、このグラフを見てみましても、入園者数、入園料収入金額等がかなり大幅に上回っているということが見てとれるかと思っております。

これについて、服部副委員長からお願いします。

**○服部副委員長** これは、数字のとおりでございまして、今、園長の方からご報告があったとおりに、まさに基本計画の着実な進展が職員一丸となって進められてきている一つの証が数字にあらわれているのだらうと思っております。そういった意味では、皆さん方の努力に敬意を表したいし、評価したいと思っております。

特に、有料入園者がふえているということが、大きなプラス要因になっているのだなということで、入園料の収入が、このままでいくと8月、9月には昨年度を上回ってしまうような勢いで進んでいます。そういったものが、ある意味で言えば非常にニュース性の高い新着動物・出産等々の連鎖反応が若いカップルを集めてきているのかなと思っております。私も時々来るのですけれども、平日は若いカップルで熱々ムードが結構漂っているのです。そういった意味では、非常に楽しんでおられるし、若いカップルの出産ということをかんがみで考えると、いい刺激策になっているのかなというふうな感じがしています。

特に、5月が断トツに入園料がアップしているということで、この辺は何か奥の手を使ったのかなという感じもしないではないのです。4月、6月、7月等々に比べたら、5月は倍以上の売り上げを上げているということで評価したいし、またこの辺の分析もしておかなければいけないのかなというふうに思っております。

入園料、あるいは入園者数等々については何も申し分ないことで、このままいきますと100万人はいけるのかなというような感じもしない勢いがあるということですので、気を引き締めながら今後も引き続きご努力のほどをお願いしたいなと思っております。

以上でございます。

**○原田委員長** どうもありがとうございます。

ほかの委員の方々、いかがでしょうか。

**○須藤委員** 5月の入園料のアップというのは、道外からの観光客、もしくはJALが協賛しているの由来であるということはあるのですか。

**○原田委員長** 道内、道外に関してのデータはないですか。

**○北川経営係長** 道内、道外のデータはないです。ただ、やはりホッキョクグマにしても

ユキヒョウにしても全国的にテレビに取り上げられて、そういう意味で言うと、新規の大人のお客様がこの時期にいらしているのではないかという分析はしております。

**○酒井園長** 私も、実際に園を回って、立ち聞きではないのですが、いろいろお客様が会話をしている中で、やはりホッキョクグマをきっかけに何十年ぶりで来たという会話が非常に多く聞かれましたし、やはり、それをきっかけに円山動物園も随分変わったのだねとお話ししていただいているのを幾つも耳にしました。では、今度は年間パスポートを買ってこようかと言っているようなお話も聞いて、全体としてホッキョクグマのツイングズがいいきっかけになっていることは間違いないなというふうに思います。

**○須藤委員** 変わった動物園を見ていただくのが一番早いと思います。

**○酒井園長** 本当にそうだと思います。

**○須藤委員** そしてまた、来たくくなります。

**○原田委員長** ありがとうございます。

原委員、どうですか。

**○原委員** この売り上げの中には、年間パスポートも含まれていますね。前年度に比べて、年間パスポートの割合はどのぐらいか把握されていますか。

**○北川経営係長** 今、資料の数字では出ていないですが、既に前年の倍ぐらいのスピードで売れています。

**○原委員** 今年は、ウィズユーカードとジョイントをかけて、セットのみのウィズユーカードも発売されているので、一つの仕掛けがあったなと感じたのです。

**○酒井園長** 今、原委員がおっしゃったように、特に5月の連休のときに、ウィズユーカード、カードとセットになっているものを、3,000セットだと思いましたが、交通局とタイアップして販売しました。例年は、かなり残っていたということでございますが、今回は完売したというふうに聞いています。デザインにホッキョクグマのツイングズを使ったということもあったかもしれませんが、そのぐらい購入していただいたことがありました。交通局とのタイアップも成功したのではないかと思います。初めて、円山公園駅にて販売していただきましたので、その辺もよかったかなと思っております。

**○鈴木委員** さっきのカップルの関連なのですが、私も大体1月に1度ぐらい伺っているのですが、前は大学の学生と会うことはなかったのですが、私も夫と行っていたりして、このところカップルの学生と鉢合わせすることがあって、変装してこないとまずいかなというくらい、本当に会うようになりました。話を聞きますと、やはりユキヒョウツイングズと、トカゲを見に来たという人もいましたけれども、やはり赤ちゃんがかわいいから来ているというのがほとんどのようでしたので、これから夏休みに早く行って見ないと子グマが大きくなってしまふ、ユキヒョウも大きくなってしまふ、大きくなったらつまらない、その前に見なければということで夏休みに一生懸命に来るのだと思います。

その後ですね。ですから、次にどんな楽しいことがあるか、もう一度来ようというふうに思ってもらえる仕掛けをお考えいただけたらなと思います。

**○原田委員長** なかなかいいところですね。

確かに、赤ちゃんはかわいいし、そのときはいいのですけれども、もうホッキョクグマもみるみる大きくなっているから、まだかわいいのですけれどもね。

**○鈴木委員** さっきも抱き合って眠っていました。

**○原田委員長** なかなか仲がいいのです。

やはり、それを記録に残しておくというのはとても大事ではないでしょうか。それで、あのころはかわいかったねと、逆に思い返しに行きたいみたいな動物園です。それから、かわいいところをムービーとかで記録をしておいて、それを振り返ってみるといようなことは今やっておかないとやれません。

ヨウスコウワニにしてもそうだと思いますけれども、こんな小さいものが随分いるねという驚きも残しておくということが必要なのではないのでしょうか。

それから、いろいろな写真集がありますけれども、赤ちゃん特集という特集版をつくっても、それだけで、それを買いに行こうというお客さんが来られるのではないかと思います。リスタート委員会のときに、動物園へ行っても買うものがないという意見が出ていたと思いますけれども、確かにそうだったのです。だけど、今はカードだけでも買いに行こうというか、あれは買うと使わないでとっておこうという人が結構多いのではないかと思います。私も実はとっておいてあるのです。そういう買うものが少しずつできてきている、見るものも今までなかったものが非常にふえてきている、それから、サイン関係といえますか、案内についても、こんなものができたのだみみたいなものが目につくというように、やはり前とは雲泥の差という感じで中身が変わってきているのではないかと思います。

ほかの委員の皆様、いかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

**○原田委員長** それでは、新着動物、出産の状況について、何かご質問等はございますか。

**○酒井園長** もう一つ報告しなければならないことがありました。

春先に私の着任当時、今回、ホッキョクグマに続いてユキヒョウの出産がありましたけれども、同じように期待された動物としてレッサーパンダのココの出産と、シンリンオオカミのキナコの出産というのかなり確実ではないかという報道もありまして、市民の方に期待していただいたところもありましたが、残念ながら、今年はちょっとだめだったということです。シンリンオオカミのキナコの方に関しては、交尾も確認され、例えば巣穴を掘るようなしぐさをするとか、かなり確実な行動が見られたというふうに私どもも随分期待していたのですが、ホルモンやなんかをきちんと検証していませんので、そういう言い方はしていなかったのですけれども、偽妊娠のようなことであったということで、検査の結果、今年は妊娠していなかったという結論を出しまして、プレスリリースさせていただいた経過がございます。

それから、7月の初めに、レッサーパンダのココの方は、体重も2キロぐらいふえてい

まして、産箱の中を行ったり来たりするという行動もかなり顕著に見えていて、モニターもつけていました。7月13日に出産をして、なめていたのだけれども、そのままココが産箱から出てきたということで、ふだんはしないのですが、たまたま獣医がモニターを見ていたということで、出産個体を確認しに行ったところ、逆子で産まれていて、羊膜が顔の部分に付着していて、呼吸ができなかったということです。その後、私も現場に居合わせまして1時間以上一生懸命蘇生を試みたのですけれども、残念ながらだめだったということで死産になりました。今回、初産ということもありまして、来年以降にぜひ期待したいということでした。

そういった意味では、体重も若干ふえていて、ココの健康管理はこれから重要なというお話もしておりますが、残念なお話もございましたので、報告させていただきました。

**○原田委員長** ありがとうございます。

それでは、イベント等の評価についてはいかがでしょうか。

自己評価をいろいろとピンク色でしていただいています。

**○服部副委員長** では、私の方から若干申し上げます。

ピンクの方の集客性に課題があるということで評価していただきましたけれども、評価の中でもスポンサーとの協賛云々を言うておりました。そういった意味で、果たして行事内容がどうだったかという検証もされていて、行事は素晴らしいのですけれども、雨が降られるとどうも集客性が弱いということで、そのリスクを回避するためにも、やはり、リスクマネジメントという位置づけの中で考えるならば、しっかりとスポンサーの協賛をつけておいて収支をしっかりとるぞということを描いておかなければいけないと思います。評価しておられましたので、あえて私がくどくど言うことではないのですけれども、今後もリスクをしっかりと回避できるような対応をしておいていただきたいと思います。また、その中で行事の内容等についても評価していくべきだろうと思っております。

もう一つは、冬場のイベント、集客というものです。冬場はある意味で何もないわけですから、集客性が非常に弱いわけです。特に、20年度を見ますと、11月からぐんと減ってきているのです。12月はがくがくと減ってきています。1月、2月もなかなか伸び悩んで、3月は少し兆しが見えるかなということで、11月から3月までの5カ月間、約半年近くに及ぶ部分の集客性が非常に弱いということで、そういった意味では、行事等々を含めて、まさに雪というハンディキャップをどうやって押し返すかという行事の検証が必要になろうかと思っております。

そういう意味では、もう少し冬場のイベントの検証をしっかりとやっておかなければいけない、確実に集客できるような目玉を毎月の中に描いておくことが大変大事だろうと思います。そして、冬場においでになられたお客様に対するサービスというものを考えていくことになると、冬場ならではのとらえ方、冬場ならではの動物園というものをしっかりとアピールしていかなければいけないのかなという感じがします。

そういう意味では、年間行事として評価すべき相当頑張った行事もあるのですけれども、

総じて冬場の目玉が弱い、冬場の集客につながるようなアピール度が非常に弱いというところを検証していただきたいと思います。

**○原田委員長** ありがとうございます。

これについて、動物園側では何かご意見がございますか。

**○酒井園長** 私の動物園ということでさまざまな取り組みをしてきておりますが、やはり、冬場に関しましては、冬の魅力ということを前面に押し出すのであれば、市民の方に冬場も来ていただきたいということもやまやまでございますが、冬の魅力ということで、やはり観光客に対してどのようにPR、アピールをしていけばいいのか、この辺が一つ気になるかなと思います。その辺でアイデア等があればもう少し聞かせていただきたいというところがございます。

**○原田委員長** いかがでしょうか。

**○林委員** まず、前の方と関連しますけれども、服部副委員長がおっしゃったように、これから肝心なのは、年間事業を検証するということはすごく大事で、前回、出ていませんけれども、これは非常に大事なことと同時に、市民がこれを全部知っているだろうかと先ほど感じました。これだけ毎日やっている、これだけイベントをやっている、これは一つのバザールということですが、新着、出産というのは、やがて大人になって、大人でも見てくれることが大事なので、そのことを皆さんが話されているのだと思いますが、出産・新着などの話題は長く続かない、それを助けるのはまさにこの行事なのだというふうに再認識しなければいけないと思います。

まず、行事を評価するのは正しいことで、私はわかりやすいと思ったのですが、さてさて、これだけ行事をやり、人手をかけ、なおかつこれだけアイデアを練る中で、私はそれを伝える仕事をしているので思うのですが、これだけたくさんやっているのだということはどう伝えるかということが一つです。

それから、冬のイベントというのは、僕もお手伝いをさせていただいていますけれども、なかなかアピール度がないです。冬と共通項として夜というものもあると思うのです。夜は結構熱心にやっていて成功しています。夜のイベントで魅力を出したように、冬の魅力をどう伝えるかというふうに考えたらどうなのだろうかと思います。ということは、夜の場合、実は観光客を掘り出すことがこれから非常に重要になってくるだろうと思います。

特に、100万人入園目標と大胆に負荷をかけましたけれども、それを達成することが経営にとって、我々が安心して見ていただけるラインだと思います。札幌市立大学がいろいろお手伝いしている「通信活用によるサービス」もどんどんやっていける一つの材料にもなるわけです。100万人という目標をしっかりと持つためには、やはり観光客をどれぐらいの入園者目標のパーセンテージで持つべきかということをも検討して、この行事をどのように評価・PRに持っていくか。

先ほどのLOHASナイトとJTBNightキャンプの話は、いわゆる採算が合っているとおっしゃいましたが、旭山と同じような観光というのではなくて、観光に向くイベント

があるだろうかというに考え、市民の動物園ですからそういうことを余りやる必要がないのでやっていないのかもしれませんが、2月のスノーフェスティバルなんて本当は観光なのでしょうけれども、うまくいっていない。これはPR・問題なのだろうと思います。

そのようなことをもう一回検証すると、観光のためには、私は夜の強化、つまり冬に来て一番きれいなのは、光の中にある夜なのです。冬は、昼間に来てきれいなのですけれども、明かりがともった、雪明りという言葉もあるように、冬の夜というのは非常にロマンティックで、まさに北海道以外の人たちがあこがれるものです。北海道の人たちは、冬の夜なんてよせよ、寒くてたまらないぞと言われるのですけれども、そういうものをどう売っていくかということが一つあるのではないかという気がします。

私は、いろいろなところに行って話をしているのですけれども、冬の夜に動物園をやっているのだよという話をすると、非常に喜ぶのです。冬もやっているのだよと言ったりすると、イメージが広がるのです。そうすると、きれいそうねと言うわけです。その中には、そこに動物がいるわけねという想像ができていて、でも、夜だからそんなにたくさん動物はいないと言っても、そんなところを歩いてみたいと言うわけです。そういう観点から検討していくのがいいのではないかなと思います。

僕は今回のホッキョクグマの出産で初めて知ったのですけれども、冬は、動物たちにとって、身ごもる、あるいは大事な時期であるので、そういうものを動物園としてもうちょっと売るべきではないかと思います。つまり、動物園の中の四季をもうちょっと明確に売るべきなのではないか。昼と夜、動物の四季、いわゆる動物園の四季みたいなものを、北海道、札幌というのは四季が豊かなところなので、その四季に応じて動物たちが飼育員とともに、一緒になって生きているということを、今おっしゃる観光にもつながるという意味で、長々話しましたがけれども、何かできるのではないかと思います。

最後にお話ししますけれども、この前、北海道観光振興機構にちょっと行きまして、観光で円山動物園はどうかという話をしましたら、円山動物園の観光というのはなんですかと言うのです。旭山動物園はどうかと言ったら、旭山動物園は観光です、円山動物園は観光の場所に入っていない、みたいなことをおっしゃられて、そんなことないよと。観光に来ている人は多いのだよというふうに大げさに言いましたら、そうですか、確かにホッキョクグマはそうですけれども。そうではなくて、まちの真ん中に動物園があるところは日本の中でそんなにたくさんないよと。だから、札幌に来たときに動物園に寄ろうとか、自然の豊かなところに寄ろうという売り方はできないですかということをおし上げました。

その後、すぐに札幌市観光文化局にも行きまして、どうなっているのかと言ったら、入っていないと言われました。まずは入れていただくことが大事なのではないでしょうか。

要するに、札幌観光の中に円山動物園は観光の部類に入っていないというのはいかがなものかと思います。環境局の中に入っている円山動物園が観光の中に入っていない。同じ「カン」はつくのですけれども、環境と観光とは違います。

そういう厳しいことを申し上げましたが、以上です。

**○原田委員長** いいご意見をありがとうございます。

動物園の四季というのはいいですね。もう、それはキャッチフレーズですね。

確かに、観光に載っていないというお話も刺激的です。ちょうど大倉山からはジャンプ台に上らなくても動物園が見えるのです。ですから、まず、あそこへ一遍登らせてから動物園へ連れてくるみたいなルートがちゃんと用意されているのにといい感じなのです。

実は、この前、台湾の方が来られたので、そのとおりにやってみたいのですけれども、とても感激してしまっていて、あそこへ行ってみようみたいな感じなのです。見てしまったら行きたくなくなるみたいなところもあります。子ども絶対そうです。ちょっと動物の鳴き声が聞こえると、入ろう、入ろうという感じになるわけです。その引き金みたいなものが大倉山にもあるなというふうに私は思います。

リスタート委員会等では、そういう大倉山との提携ということも随分言っているのですけれども、そういうバスのシャトルを運行するとか、ついでに寄ってもらいたいなやりとりができてばいいのではないかと思います。当然、動物園に来たお客さんも大倉山へご案内をするみたいな、ギブ・アンド・テイクでやると、その分、客は相当ふえるなと思います。大倉山は人が結構多いのですが、回転が速くて、滞留時間は余り長くないのですけれども、そこでぱっと動物園へ行こうというふうに決断させてしまえば、動物園に来ると思います。あの山にPRのポイントをつくったらいいと思うのです。

それでは、まだ議事がございますので、以上のような行事報告を受け、それに対するご意見もいただきましたし、将来的な提案等もいただきましたので、次の議題に入りたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

**○原田委員長** それでは、前回の動物園会議のときにいろいろ議論が出まして、いろいろ討論すべき項目が上げられておりますので、これについて、まずは動物園の方からご説明をいただきたいと思います。

**○酒井園長** 今、委員長からお話がありましたように、前回、委員の皆さんから幾つかの宿題をいただいております。今回の委員でのご議論は今日が最後ということで、現時点での動物園の考え方を整理しました。

ここでペーパーにしてございますので、資料3をごらんください。

まず、アニマルファミリー制度の自動継続についてということで、主に鈴木委員の方からのご指摘だったと思います。現状、アニマルファミリー会員の申し込みは1年ごととなっております。期限切れにあわせて会員への更新申し込みの案内を行っているものの、申し込み忘れなどで途切れるケースがある。このため、さきの市民動物園会議において、申し込み時に自動継続を選択すると、毎年、その都度申し込みせずとも、同条件で継続され、寄附の納付書が送られてくるように仕組みを改めるべきとのご意見がありました。

検討の結果、会員申し込み時に冒頭に四角をつけまして、次回以降も自動継続を希望す

るという四角のチェックボックスにレ点チェックを入れることによりまして、寄附の申し込みがあったこととみなしまして、納付書を発行する案を現在検討中でございます。早ければ次期の申し込み、1月会員の募集チラシから変更する予定でございます。基本的には、ご指摘のとおり変更する方向で現在進めてございます。

次に、これは原田委員長からのご提案でございましたが、アニマルファミリー向けライブカメラサービスについてということです。動物園と来園者の関係性を変えること、あたかも家族のように動物とのきずなをつくることを目的としたアニマルファミリー制度会員のメリットとして、対象動物の様子をライブカメラで動画確認できるシステムということのご提案がございました。常に帰宅後も夜も自分たちの家族同様の動物の様子を確認できるということが会員のメリットとなれば裾野も広がるのではないかとというご提案だと思います。

このアイデアにおきまして、市立大学が中心となって行った実証実験の弟路郎ファミリーにおいて、一定の来園誘発効果、ファミリー同士のコミュニケーション誘発効果というものが検証されてございます。

円山動物園では、まず、この実現に向けてウェブカメラの設置とか園内の通信インフラの設備投資が必要だというふうに判断いたしまして、この事業スポンサーとなってくれる企業を探すべく、早速打診を行いました。某大手通信会社に提案を行いましたけれども、採用されなかったというか、これを運営するためにはやはりビジネスモデルが必要で、そのためのコンテンツも非常に熱心にご検討いただいたのですが、現時点においては、これを回していくための運営費を捻出するということが難しいということで、採用されなかったということでございます。

引き続き、私どもといたしましては、総務省など国の補正事業を活用して事業化を行うことができないか検討中でございます。対象動物の飼育環境というものも、獣舎も含めましてまちまちでありまして、すべての動物に関して同条件でカメラを設置するということが可能かどうか、また、夜もどの程度、動物の様子を観察できるのか、獣舎の状況によっても違いますし、設置するカメラの条件によっても変わってくると思いますので、この辺の内容についても継続検討しているというところでございます。

続きまして、服部副委員長の方から、カッコウの展示と野生復帰についてということでございます。

札幌の鳥に指定されているカッコウについて、きちんと円山動物園で飼育し繁殖させる、または野生復帰させるということを考えるべきではないのかというご提案があったところです。

私どもの方としても、これをさまざま検討いたしましたが、カッコウは九州以北の原野等に飛来する渡り鳥でございまして、托卵をする鳥で有名でございます。托卵と申しますのは、オオヨシキリとかホオジロの巣に卵を産みつけまして、育児をオオヨシキリなどに任せるといった繁殖行動を行います。かえったひなが托卵された鳥のひななり卵を落として



自分だけが生き残るという行動をとる動物で、飼育下でこのカッコウを自然繁殖させるとなると、オオヨシキリとかホオジロなどを混合飼育する必要があります。まず、それらの鳥が繁殖するということが必要になります。カッコウの飼育については、まず、この個体の確保そのものが非常に難しいです。たとえ、環境省から捕獲許可を取得し、自然界で捕獲を試みたとしても、簡単にカッコウのみをとらえることがなかなか難しいであろうということです。

他の動物園でも調べましたが、飼育しているところはほとんどなく、たとえ飼育していたとしても、病鳥獣として保護されたものがほとんどですから、野生に返すということが原則となります。野生復帰できず飼育を継続する場合は飼養許可が必要になります。このように、カッコウという鳥を手に入れることは大変難しく、ましてや雄雌をペアで繁殖用に入手するということになる、なおさら困難になるということが予想されます。

自然界での野生の鳥類を捕獲することは原則禁止されておりまして、山階鳥類研究所がバンディング、これは足環標識装着調査のためにカスミ網を使って鳥類捕獲をすることがありますが、目的外の鳥も多くつかまるといことです。バンディング後はすぐ放鳥いたしますが、捕獲後はそれらのことによりかなりのストレスを与えるということで、このカスミ網の使用も許可が必要ですし、これを使うということになると、相当の理由なり、社会的な影響も考慮しなければならないということが考えられます。

以上のことから、カッコウの飼育展示繁殖を目指すということは現実的には難しく、カッコウがすめるような自然環境の保護と復元が最優先であろうというふうに考えるところです。例え、飼育下で繁殖に成功し自然に返すことができたとしても、札幌圏の自然環境が生息に適していない状況であれば、真冬には赤道付近まで渡り、また夏に飛来するときには札幌圏まで飛来することは難しいと考えますという内容でございます。

日本野鳥の会のホームページ等を見ると、こういったところが生息調査等を逐次やってございますので、今後、こういった団体とカッコウについて情報交換をする等のことを我々円山動物園としてもやっていこうと考えてございますが、現時点における飼育ということとはちょっと難しいのではないかとというのが一たんの結論でございます。

続きまして、今日はご欠席ですが、いがらし委員のビオトープの参加植樹イベント等のご提案がございました。

この記念植樹について、ビオトープで記念植樹を行ってはどうかということですが、動物園の森の基本的なコンセプトの一つとしては、現在ある遺伝資源を最大限に活用するというのでございますので、つまり、人工的に森をつくるのではなくて、今ある森が自然のまま育つ要素をじっくり見守ることをコンセプトとしてございます。そのため、この場所での記念植樹ということは考えていないということです。一方、この森の中に本来生えていなかった外来植物が侵入してしまい、人が手を加えてあげないという部分があるのは事実でございます。

私の動物園という観点から、少しでも多くの市民に愛着を持っていただくため、この森の管理作業につきましては、動物園の森ボランティアをこの春に30名募集いたしまして、今年度から既に活動が始まっております。このボランティアさんに、植樹ということではないのですが、こうした森の管理をして森を守っていただく、そして、ここに本来生息していた樹木の種を植えていただくということはこの先に考えてございますので、そういった取り組みでこのビオトープ、円山動物園の森というのは進めていきたいと考えてございます。

また、記念植樹ということに関しましては、札幌市では大きな公園を造成する際に記念植樹イベントというものを、動物園以外の各地で行っておりますので、こちらの方でやってはどうかというふうにも今考えているところでございます。

同じく、このビオトープの環境で、ホタルを呼び戻せないかというお話もございました。今回、造成いたしました小さな流れの部分へのホタルの定着については、昔、ホタルが生息していたということもありますので、可能性がゼロではないと考えます。ただ、先ほどの理由と同じで、自然度の高いビオトープ、森でございますので、外部からホタル及びホタルのえさとなるカワニナ等の生き物の人工的な導入は考えてございません。数年後、このホタルがこの場所を選んで定着してくれるというふうになれば、夜の動物園などで大いに喜ばれると思いますが、これらにつきましても、自然の回復力とか変化の状況について専門家とともにもう少し長期的に調査を行い判断していくことになろうかと思っております。

というのが、ビオトープについてでございます。

最後に、これも鈴木委員の方からだったと思いますが、入園時の演出についてもう少しにぎやかなものが必要ではないかというようなお話がございまして、正門から入園した際に一番先に目に入る案内板について、動物をモチーフにしたパネルを設置させていただきました。この辺は、林委員のいろいろなアドバイス、ご助言ということもいただきまして、テレビの舞台装置を手がけられておられる方にボランティアでパネルを設置していただいております。ごらんいただいた委員もいらっしゃるかと思います。人気のツイング、ユキヒョウ、レッサーパンダも出迎えてくれる大変楽しいパネルというふうに仕上がっております。今後も、各門の整備にあわせて、順次、検討してまいりたいと思っております。

また、入園した後だけではなくて、前回は地下鉄の駅を出てからも、既にそういったどきどき感が必要ではないかというご指摘もいただきました。現状、常設でそのような対応ができておりませんが、先ほどもちょっと申しましたけれども、このゴールデンウィークのときには交通局と連携し、地下鉄円山公園駅の連絡通路の壁の部分に、ホッキョクグマのツイングの写真を数十枚、およそ50メートルの通路にわたって張りました。そういうどきどき感につながるようなものにならないかということで張らせていただきまして、そういう効果もあって、ウィズユーバスの販売にもつながったかなと考えています。引き続き、あの場所は交通局の方からも、ぜひ有効に考えていこうというご提案もありますので、あそこの利用に関しては今後も検討させていただきたいと考えてございます。

宿題につきましては以上でございます。

**○原田委員長** ありがとうございます。

夏休みの宿題でございました。

まず、アニマルファミリー制度の自動継続について、会員申し込み時に次回以降も継続を希望するというチェックボックスを設けて、寄附の申し出があったこととみなしというようにございしますが、こういうことでよろしいでしょうか。

**○服部副委員長** 1点だけお聞きしたいのですが、1月会員の募集チラシから変更するというのですが、現状のチラシがたくさん余っているということですか。

**○酒井園長** 10月の申し込みが既に始まってしまっているのです、新規にやれるのは1月からが最短かなというところでございます。

**○服部副委員長** そういう意味ですね。わかりました。

とても素早い反応で、自動継続というのは大変大事なことだと思いますし、よかったのではないかと思います。

ファミリー会員になる人たちにとっては、1度入ったらやめられないということで、まさにこんなところにわくわく感が出てくるのかなという感じがしました。

ありがとうございます。

**○原田委員長** ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

**○原田委員長** それでは、2番目のアニマルファミリー向けライブカメラサービスについてでございますが、一番大きな通信会社に採用されなかったということでございます。引き続き、その状況、国の補助などの活用を含めて検討を進めていくということでございます。

これも、前回、弟路郎ファミリーでのシミュレーションの際に、現在、引かれている園内の回線を活用することについては、結構いろいろトラブルがありまして、無線を活用するということについてもスムーズにいかなかったという経験があります。そういうわけで、基盤設備、基盤システムそのものに少しの投資が必要であるということも反省会で出ておりまして、それに関しては少なからず費用がかかるということなわけなのです。

何とか、市民会議としてということではないかもしれませんが、それを知っている私どもとしましても、事あるごとにスポンサーになってはどうかということをいろいろ打診しているところでございますが、なかなか広いところなわけですし、おいそれというわけにもいかないという事情もございします。これは、一度入りますと、かなりの期間、自動化されてサービスが提供されて、それも無限に広がっていける可能性を含んでいますので、少し時間がかかってもそんなに遠くないうちにぜひとも実現したいというふうに、私は市民の一員として思っておりますので、市民会議としてもこれにご協力をいただきたいというふうに思います。

ということで、2番はよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

**○原田委員長** 3番目のカッコウの展示についてでございますが、これは言い出しっぺの服部副委員長にお伺いしたいと思います。

**○服部副委員長** その前に、アニマルファミリー制度で1点だけ追加でお話ししておきたいと思います。これは質問にもなるかもしれませんが、ファミリー制度を強化していく中で、動物の拡大というのは、今後、どのようなレベルで拡大していくのか。まさに、今、七つの動物がおりますけれども、これがもう少し拡大していくことによってアニマルファミリー制度ももっと拡大していく感じがするのです。ちょっと前に戻りますけれども、この辺はいかがですか。

**○酒井園長** 非常に重要だと思いますし、我々としてもそれは常に考えてございます。基本的には、誕生日がはっきりしていて、その体験メニュー等が充実した、市民の方に見て応援していただけるにふさわしい行事が行えるような動物ということで検討してございます。しかし、現状の飼育の体制とか、単純に拡大すると一部の職員に負荷が大きくなってしまいうという現状の内部事情もありますので、今、その辺を踏まえながら、どの動物に拡大することが可能なのか、1回目の動物の拡大はやってございますが、2回目になかなかまだ踏み切れない現状にございます。いずれにしろ、何らかの形でふやしていきたいと考えております。

**○服部副委員長** 今年度中にふえていくという考え方なのですか。

**○酒井園長** 今、この場ですぐにできるというふうにはお答えできないところですが、できればやりたいなというふうに思っています。

**○服部副委員長** 市民会議としても、アニマルファミリー制度をより拡大し充実させていかなければいけないという時点での考え方があると思います。そういった意味で、一つとしては、アニマルファミリー制度の強化策としては、動物を拡大していくのは大変大事なことだと思うし、また、それが究極的には飼育係の意識の啓発につながって、意識の高揚につながっていきます。ある特定の飼育員にだけ集中させるということでは、ある意味ではちょっと問題が出てくるのかなと思います。教育の面からいって、あるいは、労働意欲という部分からいっても、人と動物とのきずなというのは、まさに飼育員もかかわっての人であるわけですから、会員だけのものではなくて飼育員のものでもあるわけです。そういう意味では、一体となって動けるような位置づけの中で少しずつ、明るい希望を持たせる意味でも、いついつには拡大していくよというものを内外ともに打ち出していくべきかなという感じがしました。

3番目の私の言い出しっぺのカッコウの問題です。

まさに托卵という問題で非常に飼育しにくいという観点があるわけでございます。札幌の自然環境がだんだん損なわれてきているということで、カッコウの生息地が非常に狭まっているのは間違いありません。基本的には札幌市の鳥であることは間違いないので、動物

園として何らかの意思表示をすべきであるということから、前回までご提案を申し上げたのです。

カッコウを繁殖できないということは十分わかりましたので、将来にわたって何らかの形でカッコウを展示できるような環境を動物園の中につくっていくと。もう一つは、ここから本当にカッコウを野生に返すというのは、札幌市の動物園のアクションとしておもしろい試みかなと感じたのですけれども、厳しいということですので、まずやることは、札幌市の鳥であるということをも市民にもう一回アピールしておく必要があるのではないかということです。模型でも結構でございますので、札幌市の鳥がカッコウである、カッコウというのはこういう環境、こういう生物多様性の中で存在するのですよということを、動物園として環境の問題から、生物多様性の問題からアピールする必要があるのではないかという感じがしてならないのです。動物園としての仕事であり、ましてや円山動物園としてこういうことを市民にアピールするのは大変大事なことではなからうかと思っておりますので、ぜひ、身近なところから、やれるものところからやっていただきたいと思います。

以上でございます。

**○原田委員長** 昔、カッコウがいて、今はいないということですから、昔いた環境というのはどういう環境だったのかということ、肌で感じるのには難しいかもしれませんが、ビオトープのシミュレーションとしてつくってもらって、そういう生態系を戻していくことは必要なのだなということ、小さい子にも植えつけていくというのが環境教育として必要なのではないか、そのように受け取りました。

あとは、アニマルファミリー制度に触れられましたけれども、やはり、ファミリーをふやしていくためには、見返りのサービスが一体何なのかということをもう少し検討すべきことではないかと思うのです。画像サービスが徹底できれば、もうこれに勝る見返りはないのではないかと思っておりますけれども、うちの家族が画面で見えているというサービスですから、そうでない限り、何かで保管していく必要があるように私は思うのです。

そういう通信系の映像ということになれば、そうでない情報、あるいは絵とかカードというもので保管して行って、いつもこの子が私のそばにいるというふうに感じられるようなサービスというものが必要なのではないかなというふうに私は思います。

**○服部副委員長** これは、ライブにこだわらないで、できるところからやるということであれば、1日のうちに何回か定期的にカメラで撮って携帯で流すということは、費用はかからないわけです。そういうことが1日のうちに何回できるかどうかわかりませんが、携帯サイトではそういった意味で会員が見られるということであれば、朝昼晩ぐらいはやろうと思えばできるのではなからうかと思っております。

**○原田委員長** あとは、パスワード、あるいはバーコードでもいいのですけれども、会員であればリーダーでウェブが開くとかね。今言われたように、ライブでなければよいということであれば、いろいろとファミリーとなったアニマルの高画像を提供することが可能

なのではないかと思えます。あたかも、ライブのようなという2次的な提供になるかと思えますが、それはそれでそのものの映像であって、そのときの映像でないかもしれませんが、補完的なサービスというのはそういうものも含めてまだまだ考えられるのではないかと思えます。

**○須藤委員** 係の人をつくって1日に何回も回るのは大変だから、例えばアニマルファミリーの人が撮ったものを投稿するのも手ではないかと思えます。こんなにおもしろいものが撮れました。自分が会員のページに載ったら、載せた方もうれしいし、また会員の人たちが撮ったのを見るということも楽しいかもしれません。

**○原委員** 先ほどのお話の中で、一部の飼育員の負担がかからないためにもということで検討されているとおっしゃっていましたが、今のアニマルファミリーに関しての情報提供というのは、それぞれ担当している飼育員がメインで動いていらっしゃるということですか。

**○酒井園長** そうです。

**○原委員** 例えば、アニマルファミリーというのは、全体的には運営にかかわる内容、PRにかかわる内容でもあるとすれば、飼育展示課だけではなくて管理課で……。

**○酒井園長** それは、もちろん……。

**○原委員** そういうことはされているのですか。

**○酒井園長** はい。

ただ、日常的にえさをやり、健康状況をチェックしているのが飼育展示課なので、その具体的な内容については、飼育員がそういう通信を書きますし、感謝イベント、お誕生会のときは、直に接したここでしか聞けないようなお話を飼育員の口からしてもらおうというところが、非常にリアリティーがあり、人気があるのだと思われます。

**○原委員** それは私も思っていて、情報として得るものというのは、先ほど原田委員長がおっしゃったように、携帯などで見られるというのは一つのいい方法だと思うのです。ただ、ファミリーとして一番親しみがわくのは、生でその動物に触れられる、見ることができのために動物園があるのだと思うので、間接的なことよりも、直接、動物園に来てきずなをつくっていくという方がより動物が近く感じられるのではないかと感じています。その辺も上手につなぎができる方法を検討していただきたいと思えます。

**○原田委員長** まさに、生の触れ合いというのが一番だと思いますが、毎日行っていられないという現実がありますので、それをつなぎとめるというような意味合いです。

それでは、よろしいでしょうか。

一番最後の入園時の演出について、このようなことを行っていますというご紹介がございました。門を入ったところに動物をモチーフにした案内板をつくって、それでわくわく感をそこで覚えさせるというご努力もされているということでございます。

以上、宿題についてのご検討をいただきましたけれども、よろしいでしょうか。

**○原委員** 先ほど、地下鉄からの導入部に関しまして、地下鉄通路の話は確かにあったの

ですが、リスタートのときから問題になっていました地下鉄を出てから園にたどり着くまでの間、実際に動物園の行き方がわからない方に何人もお会いしたことがあります。あそこの導入部が一番問題になっていたと思われまます。円山公園管轄は環境局ですか。

○新目環境局理事 公園の中は環境局です。私のところでやっております。

○原委員 公園内で、昨年でしたでしょうか、立体的なお花を飾っていたのですが、そのデザインが動物だったらよりいいのになという思いで通ったことがあります。ほかの公園などで見たことがあるのですが、花をデザインするモチーフに麒麟を使ったり、いろいろな動物を題に使ってあらわす方法を使っていましたので、そういうこととか、もう少し動物とつながる何かがあれば動物園に行く道が楽しくなるのではないかという話がされていたと思いますので、その辺ももう一度検討していただければと思います。

○林委員 僕も、これは非常に厳しいことを申し上げますけれども、表示の問題というのは、ただただ表示の問題というふうに考えるのではなくて、場をつくるのだというふうに考えるべきだと思うのです。そういう意味では、どうも市の方は表示板だろうというふうに考えるのです。そうではなくて、場をつくるのだと、場を守るのだと、そういうために表示があるのだということです。

例えば、私は、表の入園するところにそういう計画があるということで、ボランティアを紹介しましたがけれども、ご存じのように、あの看板ができたときに、あそこの前に場ができたのです。今日人が立っていて、そこで案内する、あれが何もなかったら、あそこにあの人は立っていないのです。舞台でもそうです、電信柱を一つ立てることによって、その空間は一つを中心ができて上がる、あるいは端っこができて上がる。そのように、表示というのは一つの環境をつくるのだ、空間をつくるのだというふうに考えます。

今おっしゃられていたように、例えば円山公園駅からどのように導いて雰囲気を出していくのか、ただ公園があるのだから公園の表示をするのだというのではなくて、そこから世界観を広げていくのだという街に是非してもらいたいのです。

表示問題は、いわゆる縦割り官庁だから現在のようなことになってしまうので、これは当該局ではないのだということになるのじゃないでしょうか。僕ら市民からすると、官庁組織内の圏域問題で、頭を下げようが、何をしようが、自分たちのまちづくりのために、一致しているのだったら、「場づくり」をどういうきっかけとして使うか、お互いの局の中でもっと広げて考えるべきだと思います。

というのは、例えば、18丁目は道立近代美術館の入り口なのです。あそこは、パリのルーブルやニューヨークのメトロポリタン美術館の地下鉄のように、ここの地下鉄は道立近代美術館に行く道なのだぞと思うものを地下鉄の中に置けば、市民も誇りに思うと同時に、ここに道立近代美術館があると、子どもの時代からずっと思うわけです。それと同じように、円山動物園というのは、円山公園駅という駅だから円山動物園とわかるだろうと思うかもしれませんが、実際に駅からどうに行けばいいかとなると、結構問題です。

実は、僕はいつも歩きながら思うのですけれども、改札口から出た後のフロアのタイル

にととてもすてきな絵がかいてあるのです。ところが、その間に何も無いのです。そこに行ったら、ここから動物園が始まるのだなという雰囲気があるのです。ところが、また途切れてしまいます。あとはケンタッキーに行くだけなのです。あとは、マルヤマクラスになるのです。そうではないのではないかと思います。

僕は、環境局が金を持っていないことを知っています。でも観光と環境というもので言うならばどうなんだろうか、やはり、お金の使い方として、縦割りの使い方ではなく、横と連携して、一緒になってやるべきだと思うのです。札幌の社会資本というか、文化資本をそのまま生かす方法の方が十分安くて済むはずですよ。

しかし、どうも器主義がずっと続きながらやっている分だけ、おかしいのではないかなという気がしてならないわけです。

案内板をつくれればいいではなくて、そういう空間の流れをつくってほしいとおっしゃっているのだと思うのです。これは、全然違う意味なのだということをぜひ市は認識していただきたい。それは、どこの局がやろうといいのです。環境局に金がなければ、観光文化局でやればよろしいし、もしだめなら交通局がおやりになればいいのです。だって、交通局がやることで必ず地下鉄を乗るのです。車社会だから車で来る人もいる、地下鉄で来る人はなかなか難しいと言うのだけれども、やはり、バスに乗せよう、地下鉄に乗せようと思うなら、交通局がそういう努力をされるべきだと思うのです。

18丁目の場合は、僕は道立近代美術館へ言ったのだけれども、道立だから市のことは言えないと言われたときにガクっときました。

長々話したけれども、そういう流れをつくるべきではないかということをおもひなが言っているのだと思います。あの森の中には、かすかに気持ちの込められたものがありました。

**○鈴木委員** あそこを昨年か、一昨年か、もっときれいにしてというお話がこの会議で出て、それっきりだなという記憶があるのです。前回申し上げたのは地下鉄からのアプローチのところだけでしたけれども、動物園の皆さんはどうやって地下鉄から来るとお考えですか。ケンタッキーの方に行って、公園の中に入って、そして道路を渡っていくのか、今、マルヤマクラスから出て、裏参道を通して、そのまま宮越屋本店の前を通して、そして森の中に入っていくと、いろいろなロケーションのとり方があるのです。そこを実際に歩いて考えていただきたい。

**○酒井園長** 毎日歩いて、毎日考えています。

**○鈴木委員** 失礼いたしました。

**○酒井園長** まだ実行に移っていないだけなのです。私は、まさにそういうふう歩いて、おかげでハチに刺されました。

**○服部副委員長** 林委員がおっしゃっていることは大変大事ですし、これはリスタート委員会からずっと続けてお話ししてきたことで、こうしようということで提起したことです。円山公園駅をまさに円山動物園駅に仕向けていかなければいけないのです。だから、円山



公園駅であるけれども、そこで降りる人も円山動物園駅なんだよというイメージがしっかりとでき上っていけば、まさにあそこからの導入部分が始まります。あとは、アプローチの部分で、ここまで来るアプローチの中での位置づけをどうするかということを中心にしていかなければいけないと思います。その一つに、シャトル馬車を提案しているのです。これが、その後、どうなっているかという回答がまだ来ていませんけれども、いずれにしても、冬場の集客を見込むにしても、夏場にしても、高齢社会がこれからどんどん激しく進んでいくわけですから、そういった意味では道産子の馬という馬を、北海道の馬なんだということを内外ともにアピールする意味で、道産子によるシャトル馬車を展開しようということにしたわけです。

**○原委員** 馬そりでしたね。

**○服部副委員長** もう、そこからわくわく感が出てくるということなのです。やはり、そういう演出、まさに林委員がおっしゃったことは、ここまで来る間の空間が動物園の中でもう始まっているよ、動物園にもう入ったのだよという感じを与えていくということが大変大事だろうと思います。これは、リスタート委員会からそういう観点でお話をしてきたと思いますので、そういう意味では、表示についてもただ単の表示では冷たいものになります。

**○原田委員長** 確かに、周辺エリアの各拠点との連携ということですね。公園と動物園を何で切り離しているのか、その辺の誘導が難しいという現実になっているわけで、みんな本当にどっちに行ったらいいかというふうになっているわけです。そういうことも含めて、いろいろなところから人はやってきますから、必ずしも地下鉄ばかりではありませんけれども、動物園の周辺、動物たちの足跡がみんな動物園の西門、正門、できるであろう南門に向かっていて。それにお金がかかるのであれば、これはキリンの足跡、これはオオカミの足跡、これは鳥の足跡というようにタイルを買ってもらったり、寄附してもらったりという形で、そんなにお金をかけずにできるのではないかと思います。

だから、必ずしも先ほど言われたようなサイン標識を出してこっちということではなくて、下を見たらみんなこっちに向かっているのではないかと、たどっていきましょう。子どもは、私はこの足跡をたどるわということで、まじめにそれをたどって来ます。ゾウの足跡にすると、いないではないかということになるので、カバの足跡でいいと思います。

確かに、そういう雰囲気あたり一面につくっていくということが大事なのではないかと思います。

そろそろ終わりの時間になってきたので、少し時間を延長させていただいてよろしいですか。10分ほど延長させていただきまして、今日をもって交代される委員がいらっしゃいますので、委員の皆様、ここで思いがうまく伝えられなかったとか、こういうふうにしていきたいということを言葉として残していただきたいと思います。席の端から、残る方も、残られない方も含めて、一言、思いを言っていただきたいと思います。

井上委員、お願いします。

**○井上委員** 前回、どうしても仕事の都合で欠席してしまいました。

2年間やらせていただいて、どれだけお役に立てたかは疑問なところですが、これだけの入場者数の参加、それから、施設が変わったり、すごく魅力的な動物園になってきたなということをひしひしと感じておりまして、そういう中で多少なりともお手伝いで来たということは非常に光栄に思っております。

あと、さっき言い忘れたところで、前回の議事録を見させていただいて思ったことがあります。ちょうどカッコウの意見が出ていたのですが、議事録を読んだすぐ後ぐらいに、私は雪のないときはいつも自転車通勤をしまして、毎日、豊平川のサイクリングロードを通るのですけれども、ほんの2週間か3週間前ぐらいに、夕方の6時前後だったと思うのですが、地域で言うと、菊水元町から米里ぐらいのところを走っていたら対岸でカッコウが鳴いていました。一番明確に記憶があるのがそこなのですが、カッコウはそんなにいないのだろうかという印象がございます。

今回、非常に細かく動物園の方でも調べていただいて、実際に飼育展示するのは難しいということでした。確かに、それはそのとおりだと思います。あと、カッコウは展示して見ばえのいいものかという点、集客という点ではどうかという部分があるのです。ですから、飼育して繁殖させることは多分難しいという方針でいいと思います。ただ、恐らく、札幌市の鳥であるということは一般の市民の人には余り知られていないと思うのです。そういう点では、札幌市の施設である円山動物園としては、カッコウを何かアピールするような場を、成体を展示しないまでも何かつくるというのは非常に有効だと思います。実際に、それに関連して、実際にカッコウは札幌市内のどういうところにすんでいるか、例えば、札幌市を1キロのメッシュに分けて、その地域で声を聞いた聞き込み情報がどのぐらい得られているか、そういうものを野鳥の会とタイアップするとか、そんな感じで情報提供をしてもいいのかなと思いました。

あと、最近、夜の動物園で何回も訪れさせていただいているのですけれども、委員になった当初から気になっていたことは、動物が死んでしまってあいている飼育舎があるのです。ゾウのところに関しては、ゾウがいない理由のパネルを出したり、比較的きれいな状態に保たれているのですが、それ以外の小獣舎とか鳥のいた飼育舎は草が生えて荒れ放題になっているところが結構目につくのです。一応、ここには動物がいません、準備中ですみたいな感じのことを書いてあるのですけれども、あれは非常に見苦しいというか、もっときつい言い方をすれば、そこにこんな動物がいたというメモリアルみたいな、前にゾウの件でもそういう話があったのですが、そういうものがあれば、逆に動物園としても亡くなった動物のことをすごく思っている、大事にしているみたいなアピールにもつながると思います。やはり、動物のいない、動物園側も忙しい中でなかなか手が回らないということも現実的にあると思うのですけれども、動物のいない飼育舎をそのままにしておくというのは、何か改善方法がないのかというふうに思いました。

**○原田委員長** ありがとうございます。

それでは、太田委員、短目で、2分ぐらいでお願いします。

**○太田委員** 私は札幌青年会議所の方から代表で来ていただいているのですが、前任の者が急遽来られなくなりかわったので、実質1年でしたが、こういう場に参加させていただきました。ありがとうございました。

皆さんは公募という形で来ていますが、私はJ Cの方から来たということで、多分、一番市民レベルで話を聞かせていただきまして、大切な発言はできなかったかもしれませんが、持ち帰って周りの人などに円山動物園の話をとくさんするようにしました。

私が小さいときからこの動物園はあるというのがずっと記憶にありますので、この先もかかわっていきたいですし、見ていきたいですし、J Cとしてもまちづくりを毎年やっていますので、また円山動物園とかかわっていくことができればと思っております。

今後もよろしくお願いします。

**○原田委員長** ありがとうございます。

**○服部副委員長** 大変ありがとうございました。それだけでございます。

**○須藤委員** まず、提案からさせてください。

ゴールデンウィークに円山公園駅のところにポスターを張った件ですけれども、幼稚園の先生からの指摘として、子どもの目線で張っていなかったのです。それをお願いします。

あとは、駅のホームに何か広告を出すなりポスターを張って、とまったときに、ここに動物園があるのだということがわかる。おり立ったときに、もうそこから動物園というアピールの仕方をしていただけたらと思います。

あとは、子どもの学校用の教材は充実しているなと思いました。ただ、ゲーム感覚という言い方もないですが、もうちょっと子どもがみずから操作して学べるような教材があったらうれしいです。

それから、幼稚園の遠足で来て思うことは、先生からもあるのですけれども、カラス対策で、生態系を考慮して何かできたら、ごみ袋のように黄色いものがだめだったら黄色いものを置くなり、動物園内の木々の一部にテグスが張ってありましたね。あれをうまく利用できるのであればお願いします。子どもがお弁当をとられて泣いていました。やはり、恐怖心が芽生えてしまうと、とるのはちょっと難しいと思います。

あとは、感想なのですが、5年前に帰国したばかりのときに訪れた円山動物園は、寂れて、人けが少なく寂しい感じのする場所でした。とても悲しくて悔しかったことを今懐かしく思い出すのですけれども、それを懐かしく思い出せるほど今の動物園はいやしのあるさまざまな年齢の人たちが訪れる場所になったと思うのです。それは、動物園の方々の昼夜を問わずの努力と、それを支える札幌市内外の市民や企業の方のお力添えがあったことだと思えます。

日本でも世界でも月曜休園の動物園が多い中で、ここはたしか3日しか休園がないのでしたね。円山動物園は、思い立ってすぐ訪れることのできる珍しい動物園だと思うのです。この動物園をこれからどんどん発展させて、世界に誇れる動物園になってほしいと

思います。私も陰ながら応援していきたいと思います。

2年間、新しく生まれ変わる円山動物園に、微力ながらですがけれども、お手伝いさせていただいたことをとても感謝しております。

ありがとうございました。

**○原田委員長** ありがとうございました。

鈴木委員、どうぞ。

**○鈴木委員** では、言い残しておきたいことだけ申し上げたいと思います。

先ほどちょっとお話に出ていましたけれども、やはり、動物園に来て物を買いたい、物を食べたいというところがあるのです。カフェができて、あそこに円山揚げパンがあって、それはとても一つの楽しみです。先ほど、カップルの話をしましたけれども、そういうものが幾つかあると、何を見に、また、あれを食べにというストーリーがないと出かけようかという格好にならないだろうと思いますので、そのあたりを強化していただきたいと思います。

先ほど、ちらっとお話が出ていましたが、展望レストランをつくっていただいて、早く南門から入られるようにしていただきたいと思います。

それから、前回のときにちらっと申し上げましたが、ゾウのお話です。ゾウの花子が亡くなって、ゾウを今度はどうするのかというお話を前々回に少し議論させていただいたときに、本当にいろいろな意見があるのだと感じました。これは、市民全体を巻き込んで、議論を盛り上げて、飼うなら飼う、やめるならやめる、どうしてその選択をするかというところをきちんと皆さんにわかるような形でやっていっていただきたいと思います。

私は、この会議で余りお役に立てたと思えないのですけれども、大変感じましたのは、やはり動物園には非常にまじめで熱心ですばらしい方がたくさんいらっしゃいます。また、この会議に出ていらっしゃらない飼育の方々のブログなどを拝見しても、ここは人材の宝庫だと思いますので、それをどんどんアピールできるようにしていただけたらうれしいと思います。

今日も、ツインズのところまで歩いて行って見てきたのですけれども、木もふえたし、木陰もふえたし、人もたくさんいるし、本当にすばらしい動物園になりつつあるプロセスの一環にかかわらせていただいて、大変ありがとうございました。どうぞ頑張ってください。

**○原田委員長** ありがとうございます。

林委員、どうぞ。

**○林委員** かかわらせていただいて、本当にありがとうございます。

先ほど鈴木委員がおっしゃられたことで、とにかく100万人をぜひ見届けたいと私は思っております。

この円山地区の中で、100万人の人たちが来るということは、円山の中心であると胸を張って言えるでしょう。恐らく、円山の球場、競技場、円山公園を含めて100万人の

人たちが集う場所であるということが市民にはっきり伝われば、円山動物園が発するメッセージはまさに周りの環境に影響を与えるのだということになるかと思うのです。そのためにも、私どもマスコミ陣としては今後も応援していきたいと思えます。

例えば、円山球場は円山動物園のためにナイターをしないのだという記事が道新に出ました。円山動物園のために球場はナイターをしないという言い方ですから、円山動物園が中心なのです。その中に込められているメッセージの多くの受け取り方は、札幌市は環境を大事にしているまちなのだ、円山を超えて円山動物園から発せられているということなのです。まさに円山動物園は、人材の宝庫とおっしゃいましたけれども、本当に飼育員の方のHPへのブログ書き込みは大変だと思うのです。うちの社員も書こうとしていますが、番組をやっているのにブログなんか書いていられないではないかという状況なのに、よく書いています。本当に今日死ぬのではないか、どうするのではないかという動物がいるのに、どこでどう書いているのだろうと思うほど一生懸命書き込まれていて、よく変化しています。やはり、変化こそが進化だとか、変化に対応できることが進化だとダーウィンは言ったそうですが、まさに変化し続けてほしい、円山型の変化というのは常に変化するのだぞというメッセージをずっと発信し続けてほしいのです。そうすることが、恐らく、また来ようと、行かないと変わっているぞというふうになっているとおもしろいと思えます。

旭山動物園は、敵ではないですけども、器主義の限度は見えたと思うのです。あとはどうするかですね。これから旭山が円山型を学ぶことになるのではないかと思います。まだまだ未完成ということで、サイドからお手伝いさせていただきたいと思えます。

以上です。ありがとうございました。

**○原田委員長** ありがとうございます。

それでは、原委員、どうぞ。

**○原委員** 私は、ここで円山動物園ボランティアとして参加させていただいています。そこで、時間がないところ大変恐縮なのですが、最後ですので、もう少しお時間をいただきたいと思えます。

園長に伺います。

4月に着任されてから、円山動物園のガイドボランティアをどのように感じられていますか。また、今後、園とガイドボランティアがどのようにかかわっていくとよいとお考えになっていますでしょうか、お聞きしたいと思えます。

**○酒井園長** ここに来て、私の動物園を本当に感じるものの一つがガイドボランティアさんだなという気はすごくします。本当に熱心に動物園のために貴重な時間を費やしていただいて本当にありがたいと思えますが、正直に申しまして、まだ改善の余地も随分あるのかなというところはあります。やはり、お客様に対して私どもの飼育展示の方との連携を密にするということが今後はちょっと必要なのかなと見ていて思うところはあります。それは、今、我々の中でも議論してしまして、課題の一つだと思っていますし、そういう

ための班組みなどの改善を手がけているところです。

あとは、それぞれの方々がやりたいことと動物園でしてほしいところがうまくマッチングできていない部分もあるのかなと思います。そのためには、今のようにボランティアさんに全部一遍に同じような条件の中で採用してお願いして割り振りするというやり方ではなくて、それぞれの動物に対応するような採用方法を考えていかないと、お互いに満足がいくガイドができないのではないかと思います。それが、ひいては市民の方にとっても、まだまだ改善の余地があるところなのかなという気がします。基本的には、円山動物園の私の動物園というコンセプトを支える一番重要な部分の一つだと私は思っています。

**○原委員** ありがとうございます。

今の園長のお言葉で、今後の期待が持てるという気持ちになれました。

私事ですが、今年度のボランティアの更新で、活動回数をこなすことができないために更新を断念しました。よりよい園をつくっていく上では、ボランティアの向上も必要となっていてまいります。また、その上で活動回数が少ないという理由で切られてしまうのもやむを得ないと思うのですが、今までボランティアとして活動を続けてきた者にとっては、よりよい園をつくるための思いとか、来園されている方の喜んでいただけるための思いを持って活動してきたつもりでいましたので、今回、回数のみでボランティアを去らなければならないという結果にとっても寂しい気持ちと残念な思いでいっぱいです。

今まで、ボランティアをさせていただいて、数々の動物の命などに触れ合うことができたり、来園者の笑顔をいただいてとても充実した時間を持つことができたことには大変感謝しています。ありがとうございました。

そこで、最後に、一市民としての思いですけれども、ボランティアとして活動する人たちが物のような扱いをされることのないよう強く願っております。物といいますか、頭数だけをそろえれば活動が成り立っていくのだというような扱いを、今回、切られることによって私はそういう面を少し感じてしまいました。今後は、そのようなことを感じるボランティア活動であってほしくないと強く願っておりますし、よりよいボランティア活動ができる場を提供していただきたいと思います。

最後とさせていただきます。ありがとうございました。

**○酒井園長** 原委員がそのように感じられたということで、非常に残念に思っております。せっかく一緒にやってきている中で、私は誤解だというふうに考えたいのですが、内部的に私としても調査しなければならないと思いますけれども、決してそのようなふうに考えているわけではないと思います。ただ、そういうふう感じられて、せっかく一緒につかってきている中でそういうふう思われてやめなければならないというのは非常に残念だと思います。

今後は、そういうことのないように、先ほど申しましたような形で、いろいろな方々がいろいろな条件、生活のリズムの中で動物園を支えるために頑張っていただいていると思いますので、その辺の配慮なりシステムの十分ではない部分があったことも一つの原因

だと思えますから、その辺を改善しなければならないと思えます。

ただ、そういうふうを受け取らなければならなかったということは私としても非常にショックですし、そこは我々としても改善したいと思えます。その部分は大変申しわけありませんでした。

**○原田委員長** 今、そういうお話を聞いて、動物園の動物がいて、それを飼育する人がいて、それを展示する人がいて、それを見にくる、あるいは自分のファミリーだと思って会いにくる人たちがいて、その間に立つのが、別に雇われているということでもなく、社員でもなく、ボランティアという人たちの私たちがちょっとサービスをしてあげましょうという心みみたいなものがうまく支え合ってきているのが動物園という環境なのではないかと思うのです。

いろいろなことに対して、こうしたら危ないよとか、長いキャリアの中でわかってきたこととか、してはいけないことを小さい子にさりげなく指導していくということや、知っている知識を提供するということも含めて、私はボランティアの役割が動物園のようなどころでは非常に強く、非常に有効に働いているのです。そうでなければイベントなんか何もできないと思うのです。飼うだけであれば、飼育員がいればそれでいいわけですけれども、それを見にくる小さい子がいて、同伴してくるお母さんたちがいてという環境の中で、私はボランティアの果たしている役割は、数%ではなくて、50%くらい、もう半々ぐらいの重みがあるのではないかと思います。それがうまくかみ合ってきたから、この動物園も先ほど報告があったように30%増という結果を生み出してきているのではないかと思います。私は、そういうボランティアの人たちの心が動物園にぴっと向いている、何とかしてやろうという気分にならせるように、我々も含めてですけれども、動物園にかかわる人たちすべてがそういうボランティアの方たちに対して目を向けていくということが必要なのではないかと思います。

私は、回数が足りないということで数人の方がやめざるを得なくなったという話を聞いたことがありますけれども、そのように回数で切っていったらだれもいなくなってしまうのではないかと思います。心は動物園に向いているけれども、数値で切られる。これでは動物園はやっていけなくなってしまうと私は思います。これからも、そういう人たちの心を結びつけていかないと、市民の心を結びつけることは無理なのではないかと私は思います。その辺は、これからの動物園のボランティアに対するかかわり方をちょっと見直していただいた方がよろしいのではないかという気がいたしますので、私からもよろしくお願ひしたいと思えます。

時間が大幅に過ぎましたけれども、今、それぞれの委員の先生方に心の内を含めてお話しいただきました。これによって、また市民動物園が市民の、私たちの動物園としてよりよく発展していけるように期待したいと思えます。

それでは、次回の議題ということで、市民会議の委員の先生方に同意を得ていきたいと思えます。

先ほどお話が一つ出てまいったことがあるのですけれども、非常に長い間懸案になっていることがございます。それは、鈴木委員からありましたが、ゾウはどうなったという話です。これは、市長も大分気にして、ゾウの好きな市長なのでしょうね、いろいろと市民を集めたり、若い人たちを集めたりして意見を聞くのだけれども、どうもみんながゾウを何とかしてくれと一言で言わないものだから、市長もちょっとむくれかかっているような印象があります。動物園側としましては、これについて市民動物園会議としてある程度の結論を出しておきたいと思います。

その結論は何かというと、入れる、入れないの問題ではなくて、どういうプロセスを経てこのゾウ問題を扱えばいいのか、ゾウを導入するのはどういうプロセスを経ていけばいいのか、1万人アンケートだけではないだろうと思うのです。そういう意味で、今回はそういうテーマをちょっと重点的に話し合っていきたいと思っています。あれはどうなったのだということに対して、こうなったよというふうに答えられるように進めていきたいと思っています。

そういうことで、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

**○原田委員長** ありがとうございます。

今日は、動物園サイドで周到にデータ等のご準備をいただきました。内容的には、皆様のご意見をいただけたと思います。

最後に、事務局の方から何かございますか。

**○北川経営係長** 次回の日程ですけれども、一応、11月の下旬、もしくは12月の上旬あたりをめどに、再度、日程調整をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

#### 4. 閉 会

**○原田委員長** それでは、第7回市民動物園会議を終了いたします。

委員として参加していただいた皆様方に心より御礼申し上げます。

ありがとうございました。

以 上